

2019年度日・EUフレンドシップウィーク企画開催！

2019年5月22日、「日・EUフレンドシップウィーク」（駐日EU代表部協力）の一環として、ベルリン在住著述家の明石政紀氏による講演「ドイツ音楽はいかに世界の音楽となったかーベートーヴェンからクラフトワークまで」が開催されました。（上智大学ヨーロッパ研究所主催、ドイツ文学科共催）

ウィーン古典派からクラウトロックまで、世界の音楽界に旋風を巻き起こしたドイツ音楽について、映像を交えてお話し頂き、文学部ドイツ文学科の学生を中心に180名を超える来場者が魅了されました。

受付ではEUに関する資料の配布を行ったほか、帽子やピンバッジなどのEUオリジナルグッズを抽選で参加者に配布しました。



ドイツ音楽について解説する明石氏



受付にてEUに関する資料およびグッズを配布



Lecture/講演会

eu-j 日・EUフレンドシップウィーク

ドイツ音楽はいかに**世界の音楽**となったか
ベートーヴェンからクラフトワークまで

明石 政紀 (あかし・まさのり)
著述家。札幌生まれ。
1980年代前半はパンク・オルタナティブ・ミュージックの批評、80年代後半から90年代前半までは音盤制作者 (Wave-eva/evaレーベル)。90年代後半にベルリンに転居。
著書に『ベルリン音楽異聞』(みすず書房2010)、『ニューブリック映画の音楽的世界』(アルファベータ2007)、『フリッツ・ラングまたは伯林=聖林』(アルファベータ2004)、『ポップ・ミュージックとしてのベートーヴェン』(勁草書房2002)、『ドイツのロック音楽またはカン、ファウスト、クラフトワーク』(水声社1997/2003)、『第三帝国と音楽』(水声社1995) ほか。音楽関係の翻訳書には、グライスヴァイラー『オットー・クレンペラー あるユダヤ系ドイツ人の音楽家人生』(みすず書房2011)、マイケル・H・ゲイター『第三帝国と音楽家たち 歪められた音楽』(アルファベータ2003)、ヴォルフガング・フリユア『クラフトワーク ロボット時代』(シンゴミュージック2001)、パスカル・ビュッシャー『クラフトワーク (マン・マシーン) とミュージック』(水声社1994) などがある。

2019年5月22日(水)
10:55-12:35
上智大学四ツ谷キャンパス
中央図書館9階 L921

入場無料/事前申し込み不要
使用言語 日本語

来場者にEUグッズ
プレゼント!!

【主催】上智大学ヨーロッパ研究所 印博館センター
〒102-8554 東京都千代田区紀元前7-1 上智大学中央図書館721号
Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sohita.ac.jp
【共催】上智大学文学部ドイツ文学科



司会の佐藤朋之教授（ドイツ文学科）



来場者は180名を超えた